

[TOP page](#)[資料室](#)[イベント情報](#)[講師を探す](#)[Worker's 広場](#)[関連リンク](#)

資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [一般教養](#) | [傾聴](#) | [傾聴のトレーニング \(14\)](#)
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[社会保障](#)[労使トラブル法律相談Q&A](#)[労働関係法](#)[経営全般](#)[人間関係とコミュニケーション](#)[ライフプラン](#)[男女共同参画](#)[公務員関係法](#)[日朝の歴史](#)[7つの習慣](#)[中東の歴史](#)[ボランティア活動](#)[環境活動](#)[社会貢献活動](#)[自己啓発](#)[生涯学習](#)[外交・防衛問題](#)[資本論](#)[教育カリキュラム](#)[日本国憲法](#)

傾聴のトレーニング (14)

最上級の傾聴とはどのようなものだろうか。

それは話し手が、聴き手の応答を聴いているうちに、安心して、自分の内側にふれて、自分の内側にスーッと深く入っていくことができるような、そんな傾聴である。

第4ステップ

「話し手が安心して、自分自身の内側に深く入っていける傾聴」の練習

インタラクティブ・リスニング (前半)

- 1、話し手が、テーマについて、自分の内側でどう感じているかを確認しながら、たえず自分の内側に触れつつ、少しずつ、短く区切って話をしていく
大切なのは、ひたすら状況説明のように話し続けられないこと、そのテーマについて自分の内側でどう感じているかに触れながら、ゆっくりと短く区切って話をする。
できれば30～40秒くらいがちょうどいい。
- 2、聴き手が言葉を伝え返す
話し手の話を虚心に聴きながら、その話のエッセンスを自分の内側深くで感じとりながら、話を聴いて理解した大切な点を、ゆっくりと伝え返す。
すぐに返さずに、話し手の話を聴いたら、すこし間をとって、自分自身の内側で話し手の話のエッセンスをたしかめた後で、「…ということでしょうか」と、こちらの理解、受け取りが、それでぴったりかどうか、話し手に「確かめてもらう」ような姿勢で、伝え返しをおこなう。
このとき、質問はしないし、自分の気持ちや意見、感想なども一切言わない。
評価したり批判したりもせず、解決してあげようとするのもいけない。
- 3、話し手は、聴き手から伝え返してもらった言葉を、自分の内側に響かせる
聴き手が伝え返した言葉が自分にとってぴったり、じっくりくるかどうか、自分の内側に響かせて確かめる。
ちょっとずれていたり、ぴったりこない部分や、足りない部分、逆に不必要で余計な言葉などがあつた場合には、それを聴き手に伝えて、ぴったりとした感じになるように、もう一度伝え返してもらう。
微妙な違いをていねいにその場で修正してもらっていきながら、「二人で同時に進んで」いく。

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

[>>一覧へ戻る](#)

傾聴

語り部スキル

🔍 キーワード検索はこちら

🔍 サイトマップ 🔍 このサイトについて 🔍 個人情報保護の取組みについて

🔍 ページTOPへ

TOP page

資料室

イベント情報

講師を探す

Worker's広場

関連リンク

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.